

# 愛西市立 立田南部小学校

## 福原分校

### 141年の歴史に幕

開校から141年の歴史を経て、いま廃校を迎えようとしています。

立田南部小学校福原分校は、本校である立田南部小学校より15年早く明治25年に加立尋常小学校として設立されました。

この名称の「加立」は、地元の著名な加藤太兵衛氏の寄付によって、明治10年に建てられた前身の加立学校に由来します。

児童数は、大正10年の60名が最も多く、その後も2桁の児童数を維持していましたが、平成12年以降、1桁の6名から3名へと推移していました。

当時の渡し船は木造で、エンジン音がポンポンと聞こえるため「ポンポン船」と言っていました。

昭和59年10月の立田大橋開通までは、渡し船を使い、本校との交流として、入学式、卒業式、修学旅行を一緒に行っていました。

本校からも先生の引率のもと、学芸会や野外学習のキャンプなど、福原分校へ交流が広がりました。

木曾川と長良川の輪中にある小さな学校は、自然に囲まれ、のびのびとした教育環境で、「生きる力の育成」を目標に、独自の教育に取り組み、毎年、野鳥観察を進めてきました。

しかし、少子化、人口減少で児童数が減少し、現在、福原地区の児童4名は本校に通っているため、福原分校は平成30年度より休校となっています。



▲福原分校 地図

#### 福原分校の沿革

昭和	明治						年号
	40	38	27	25	12	10	
22	40	38	27	25	12	10	年
立田村立立田南部小学校 福原分校と改名	南部尋常小学校の第2分場となる	加立尋常小学校を廃校 立和尋常小学校分場となる	加立尋常小学校再建築	加立尋常小学校と改名	立田学校と改名	加立学校ができる	校舎建築 加立学校ができる
教育基本法制定			日清戦争	24年 濃尾大地震倒壊			社会の出来事

来年度の就学児童2名も、本校への通学を希望しています。また、福原地区の約40世帯から「児童、保護者のことを第一に考えてもらいたい」との意見もあり、市教育委員会は、福原地区地域懇談会の結果を踏まえ、分校の在り方を協議しました。出席者全員の総意により分校は、31年3月31日をもって廃校することとなりました。

分校跡地の活用については、今後、地元と協議していきます。